

<p>会報 第68号</p>	<p>M t . I w a k i C o n s e r v a t i o n A s s o c i a t i o n</p> <p>岩木山を考える</p>	<p>2015年12月21日発行 岩木山を考える会 会長代行 小堀英憲</p>
--------------------	---	---

## 巻頭言：猿害（獣害）は捕殺で防げるか

阿部 東

はじめに

お盆が近づくと岩木山嶽周辺の未舗装の道路は車が通れなくなる。クマよけの電気柵のせいである。所かまわず電線が張られ、通れないのは嫌だが、農家の人達の生活がかかっていることと、クマの命がかかっていることで、仕方がないことと諦めている。おそらくクマによる食害はこれでなくなったはずである。

猿害も岩木山でも起こりはじめているという。岩木山には以前サルはいなかった。最近サルが増えたから被害も出始めたに違いはない。サルは学習能力が高く、弱い電流による電気柵はすぐ役立たなくなることが知られている。集団でせまい地域に集中して被害を与えるので、サルの害は新聞ネタにされる。

人間が銃を手にし、サルを根絶やしにして猿害をなくしたのは、およそ半世紀前までかもしれない。狩猟鳥獣でなくなった現在、サルが人間を恐れなくなって被害が出てくるのは当然のことである。

(1) サルの駆除は被害軽減に効果はあるのだろうか？

サルを捕獲し被害を減らすと言う方法は、12～3年前の青森県でとられていた策で、私どもが県の自然保護課に抗議に行ったものであるが、「悪いサルは決まっているのだから、年に20頭位をつかまえる」と相手にしてくれなかった。しかし、それで猿害が減ったということを見たことがない。その後サルを追い払う犬の話が伝えられ、サルの被害は新聞ダネにもならなくなった。

当時2000頭いる下北のサル20頭を間引くと言うこの方法では、猿害は減らなかったのだ。間もなく、研究者の中では次の研究成果が明らかになった。

- 猿の数がどんなに多くても猿害レベルが低ければ被害はない。反面、どれだけ殺しても、悪いサルが1頭でもいれば被害は起こる。(サルを根絶やしにすれば別)
- サルを殺してサルの数が減ると、サルの行動範囲が小さくなり、特定の狭い地域の被害が深刻になる。
- ある群が減ると別の群が侵入してくる。
- 群の個体数が減ると生活力を失い、農作物への依存度が増加する。(悪いサルが増える)

この研究は当時の常識を覆すものだった。

(2) 猿害を防ぐには(猿は学習能力が高い)どうすればよいか

- 杉の植林地だらけの山々を(もうほとんどが伐期40年に達している)杉を伐採するとき、昔の自然植生である落葉広葉樹林に還す。---- ケモノ達の餌が十分にある林に還す。
- 下北のようにサル犬を使うことも一つであるが、サル犬の育成には時間がかかるので、サルに発信器を付け、サルの先回りをして追い払いをする。---- サルに人間の里は不愉快な場所として学習させる。必要に応じて捕えて花火などで脅し、殺さずに群れに帰して学習を定着させる。
- 人間のいるところは一時的収穫の時は豊かであるが、冬の期間はブナの芽やクワ、コシアブラの樹皮がない。サルの生活に適した場所ではないことを知らせる。

など、獣害を防ぐ方法を本気で探す努力が必要である。おそらく将来ニホンジカのこともカラスのことも、他の動物と人間の摩擦がますます増えることも出てくると思うが、対策については、青森県の自然保護課の当時のように、農業の人達による苦渋の捕獲などの安易な方法をとることなく、きちんと観察研究した科学的な根拠をもとに、被害を減らす方法を選ぶべきであると考え。(現在は日本獣害管理技術センターがあり、獣害医もある。)

## 新年会のご案内

皆さまのご協力で、諸催しを盛況裏に行うことができました。その中で課題も見えました。新年会を以下の要項で行います。18時から、会員の方にも参加していただき幹事会を行います。その後、会食・交流をしたいと思います。ゆっくり語り新たな年へのスタートにしたいと思います。

会場 川丁(百石町)

日時 1月12日(火)午後6時会場 百石町60-9 tel35-4111

会費 4000円(飲み放題つき)



## 第22回写真展「私の岩木山」開催と出品・会場展示のお願い

青森県の主峰、津軽のみみんなの心のふるさと岩木山、今年も写真展「私の岩木山」を開催します。会員の皆さん、ふるって出品をお願いします。

開催日 2016年2月5日(金)~7日(日)

開催時間 午前 10 時～午後 5 時まで(但し最終日は午後 4 時まで)

開催場所 NHK 弘前放送局ギャラリー(弘前市下白銀町)

※出品について:会報に同封された「出品表」に必要事項を記入(必須)し、2月4日(木)午後3時～4時まで会場に搬入してください。

※出品作品について:岩木山に関連する写真であればどのような写真でも構いません。お一人様5点までとさせていただきます。額に入れてご持参ください。

※展示について:2月4日(木)午後4時より展示作業を開催しますので、お手伝いをお願いします。最終日の午後4時より後片付けと写真の撤去・返却を行います。出展者は必ずお出でになって、お持ち帰り願います。

## 第5回岩木山講座「岩木山の雪山観察会～平沢右岸尾根～」

岩木山南山麓の湧水が多い平沢右岸尾根を散策します。昆虫のさなぎや、動物・野鳥の足跡を観察します。

期 日 2016年3月13日(日)9:00～12:00

募集人員 先着20名様

集合場所 午前9時までに岩木山運動公園駐車場に集合

持 物 防寒具、長靴または登山靴、準備できる方はカンジキ

参 加 費 200円(保険・資料代)

担当者及び申込先 竹谷清光(TEL 0172-36-6686 17:00～21:00)

申込締切日 2016年3月8日(火)

## 2016年度 岩木山を考える会総会開催のご案内

日時:2016年4月3日(日)13:30～

場所:弘前市民参画センター

多くの会員の皆さんの出席をお願いします。

## 第3回岩木山講座

### 「岩木山麓の神社と石神信仰の地を巡る」報告

9月13日(日)、福士壽一氏を講師に参加者24名はコープあおもり和徳店を8時にスタート。岩木山神社発祥の地巖鬼山神社へ。湧き水の所の階段を昇り拝殿へ。樹齢千年以上の大杉2本は圧倒的でした。社司の長見氏から神社にまつわるお話がありました。二番目は十腰内山神堂下(とこしないさんじんどうした)石碑群へ。庚申塚(中国の道教に由

来)、猿田彦太神(日本の神様)と刻まれた石碑が30位、小高い地に祀られていました。三番目は上建石神神社へ。鳥居に据えられた「石神神社」の各文字に「、」がつけられ「石、神、神、社」と表記され、雨の恵みを請う当時の思いを感じました。次の鬼神神社から下建石の庚申塚へは歩いて移動。「幸神」という碑が多く、飢饉や自然災害に遭わないようにという痛切な願いが込められてい



森田歴史民俗資料館の土偶

るように思いました。刀鍛冶伝説の小屋敷・湯舟のお話を車窓に桂山を眺めながら聞きました。昼食・休憩のため鱈ヶ沢「海の駅わんど」へ。雨がちの天気のため午後の出発を20分ほど早めました。

森田、床舞の八幡宮へ。「庚申塔」の青面(しょうめん)金剛、三猿について話がありました。次に森田歴史民俗資料館へ。「石神遺跡」から発見された縄文前期から中期に至る円筒式土器の全形式が揃うところです。次に森田久須志神社。保食(うけもち)神、大石神社へ。最後は鶴田町の妙堂崎のトドロポ(樹齢350年程のモミの木)でした。午後二時ごろ帰着。悪天候でしたが皆様と貴重な学びができました。ありがとうございました。

藤原裕貴子 記

## 参加者感想

山は赤く津軽はりんごの最盛期だ。無事に収穫を終え安堵して冬を迎えたいと誰もが願う。私たちは神社に詣で五穀豊穰を祈り、また窮地のときは神様仏様と言って手を合わせる。

私は今回初めて参加した。岩木山周辺にある目には見えないが摩訶不思議なもの、それが人々の心の拠り所となっていたと実感できた。

巖鬼山神社は荘厳で幽邃、足を踏み入れた途端その神々しさに絶句した。龍神様の流れ出る清らかな水の音に耳がいく。

なぜ人は石を建てるのか。飢饉や疫病に悩まされていた人々が救いを求めたと知った。鬼神神社などにまつわる話しには身の毛がよだった。石に彫られた月やお日さまの謎も解け、庚申信仰について実際に見ながら説明を聞いたのが良かった。

福士氏のお話はどれもこれも興味深かった。伝説の刀鍛冶、十腰内の地名の由来等…。

今の世は科学技術が発達し私たちは恩恵を受けている。同時に天災のように避けて通れないものがあることを忘れてならない。畏敬の念を深くした次第。講師の福士壽一氏をはじ

め、この企画の関係者の皆様に深く感謝したい。

今由香 記

## 第4回岩木山講座

### 「梵珠山中腹から岩木山を眺める～紅葉とキノコ汁～」報告

この日は秋晴れの絶好の観察会日和でした。午前9時梵珠山登山口Pに総勢24名が集い、内幹事4名はキノコ汁担当で準備。20名が9:10に歩き始めます。

最初はサワグルミの道を進み、登山道沿いの山野草や樹木の果実に見入っていました。途中の六角堂付近で小休止。阿部、竹谷幹事の果実や花後の姿についての説明をそれぞれ聞きながら、皆さんが感動していました。赤や紫の実が多いのがこの時季の特徴で、特にコウライテンナンショウ、ガマズミ、ムラサキシキブ、クサギ、ユキザサ、エゾツリバナ、コマユミ、カンボク、ツルシキミが目立ちました。今回の目的のひとつである岩木山を眺める、岩木山展望所に10:18着。裾霞の岩木山を遠望し休憩タイムとしました。付近のコシアブラの薄い葉を見て10:30同じ道を下り始めます。途中からミズバショウの道へ進み、もうひとつの目的である日本一のブナ観察です。登山道からブナ巨木までの尾根道、ブナの周りが刈り払いされ、尾根上部から容易に見下ろす事ができました。自然ふれあいセンター係員の話では、階段を設置し、ブナ巨木の周りの土を踏み固めないよう、環境に配慮しながら見物できるようにしたいとの事でした。約5分滞在してミズバショウの道に戻り、11:35全員無事に下山です。キャンプ場で美味しいナラタケのキノコ汁をいただきながら、随時解散としました。今回は県民の森梵珠山ふれあいセンターにも大変お世話になりました。

花田一雄 記

### 参加者感想

先日の「紅葉ときのこ汁の会」に参加した感想です。梵珠山は十一年前の小学校の全校遠足以来でした。

ほぼ初めての場所ではありましたが、景色は綺麗だし程よく登りやすいコースで、知識豊富な山の先輩の方々のお話を聴きながら散策が出来て楽しかったです。下山後のきのこ汁は良いお出汁が出ていて、すごく美味しくてついおかわりしちゃいました。運動の後のきのこ汁最高です！

秋の紅葉も良いですが、今度は春にでも行ってみたいと思います。春は山菜汁ですか？楽しみです。またこういう会があれば参加したいです。

ペンネーム：ぷりこ 記

## 「第36回東北自然保護の集い」福島集会報告

11月14日(土)～15日(日)にかけて、福島県郡山市郡山温泉を会場に今年の集いが開催されました。この集いは、東北各県回り持ちで民間の自然保護団体が年1回一堂に会し、その地方、その時々々の焦眉の課題をテーマにして意見

交換をしているもので、集会后その年のアピールを採択しています。民間団体の集会ですが、行政からの位置づけも高く、今回は

来賓として郡山市の副市長が挨拶をし、林野庁からは関東森林管理局の計画保全部長が全日程参加していました。

当岩木山を考える会からは7名が自家用車2台で参加し、学習と交流を深めました。

福島での集会だったので、テーマは、過去最大の自然環境破壊となった東京電力福島第一原発事故に係る諸課題が、様々な角度から取り上げられていました。オプション企画の現地観察会も、自然観察とは別に、帰還準備区域の現地視察が組み込まれるなど、事故後4年を経過してもなお収束することのない現地の実情がプログラムに反映されていました。

記念講演は福島大学環境放射能研究所所長の難波謙二氏による「放射線の生態系への影響」。福島県で現在収穫されている米や果物の放射能汚染はないことを強調しました。福島から4題の現地報告がありました。「地熱開発の現状と課題」「只見川ダム災害損害賠償請求訴訟の現状」「汚染土壌仮置き場整備の諸問題」です。仮置き場問題では、地元の了解なしに強引に設置を進めようとする自治体の姿勢について問題提起されていました。

関東森林管理局の井出部長から特別講話として「保護林制度の改定について」と題して、自然保護協会と議論を重ねる中で、日本の代表的な森林をまとめて残すことが実現することになったとの報告がありました。



郡山市の副市長が挨拶に駆けつけてくださいました

その後、秋田・宮城からの報告を行い、夜の懇親会へと流れていきました。懇親会では、毎年各県の活動の交流が活発に行われるのが特徴で、今年も0時過ぎまで場所を変えながら熱心に交流が図られました。



翌15日は8時半から集いが再開され、青森、岩手、山形からの報告を行いました。青森からは当会の阿部東幹事が、「ゴマシジミ発生地との保護とススキ刈り払いの効果」と題して報告を行いました。その後全大会と、アピール採択に向けた議論を行いました。採択されたアピールの概要は以下の通りです。

#### ゴマシジミの保護について報告する阿部東氏

1. 東北地方のすべての原子力発電所、原子力施設は速やかに廃炉、廃止とすること。
2. 除染等によって発生した放射性廃棄物は国、東京電力が責任を持って処理することは当然であり、地方へ押し付けることは速やかに撤回すること。
3. 再生可能エネルギー開発は地産地消を前提に、自然と共生、同化した施設に限定すること。
4. ダムなど人工物に頼った防災には限界がある。地形や先人たちの知恵に基づき、自然への畏敬を持った治水、治水対策に万全を期すこと。
5. 地域での野生鳥獣との軋轢や生態系の変化が深刻化しており、特に福島第一原発事故に伴う避難町村やその周辺地域における効果的な対策を国、東京電力は実施すること。
6. 国有林における保護林制度の改定に伴う、具体的な制度の策定、運用については地元自然保護団体との連携も含め慎重に進めること。

青森から参加した7名は、まとめてオプション企画である、葛尾村の視察に参加しました。葛尾村は全域が帰宅準備区域となっており、現在人はだれも住んでいません。平坦な土地と言う土地には汚染土が入ったフレコンバッグが山となって積み上げられており、帰宅後の生活の困難



さを感じさせました。

双葉郡葛尾村の汚染土。この場所に帰宅が準備

視察終了後、参加者の乗った2台の車はそのまま高速道路に乗り、青森に戻ってきましたが、やはり福島は遠い。それでも事故もなく、弘前インターには22時過ぎに到着できました。参加したみなさんお疲れ様でした。

事務局長 竹浪純 記

### 参加者感想

今年は原発事故に伴う放射能汚染と再生可能エネルギー開発を考えるというテーマをきっかけ開催されました。

第一日目は福島大学環境放射能研究所の所長、難波謙二氏の講演と、現地からの報告がありました。研究所では放射能の汚染がどの様に移行し、生態系や私たちの暮らし

に影響があるか、予測して調査研究をしているその様子を知ることができました。前は食することが出来ないものが食べられるようになったり、セシウムの汚染がまさかと思うところにたまっていたりなど、そのメカニズムを研究し、その結果を私たちに提言をしてくれる大切な研究所だと言うことあらためて感じました。そんな研究所があるということもはじめて知りました。

現地からの報告では、1. 地熱発電の課題 2. 只見川ダム災害 3. 汚染土壌の仮置き場の様子 4. 荒川流域底生動物のセシウム汚染

そこに住んでいる人たちの生活の中から私たちの知らない問題点を指摘していました。地熱では温泉枯渇、地盤沈下、地下水汚染など。ダムは安全というけど自然破壊と災害被害を大きくしている。汚染土壌が仮置き場に放置されている。川の底の生動物にセシウム汚染が進んでいるなど、目を開かれる思いがしました。違う側面からものを見る力を身につけることの必要を感じました。

総会では、一字一句をたしかめ、集会アピールを採択し、その後、現地観察に参加しました。双葉郡葛尾村の避難区域にはまさにブルーシートが山のように積まれ、作業をする人たちだけ。シーンと静まり返ったところで、放射能検査(表示)板に私たちでは考えられない放射能の数値が光っていました。ここに住んでいた人たちの悲しみや怒りが伝わってきました。この情景を見て、原発を再稼働してはならない、原発をなくさなくてはという思いを新たにしました。36回のつどいからたくさんのごことを学ぶことが出来ました。参加して良かったです。

土岐満子 記

## 弥生跡地の毎木調査

弥生跡地に於いての樹木の成長状況を調査するため3ヶ所のエリアを設定してその樹木の太さ(周囲長)を計測しています。これは故三浦前事務局長の時期に阿部前会長指導・指示で設定したと記憶しています。これまで諸兄の諸意見をとり入れながら(そして進化しながら)実施継続となっております。

そして現在では①樹木の測定位置へのペイントマーキング②メジャーの使用時はメジャーを少し緩めたり引き締めたり最後に強く引き締めて凹凸や樹皮状況の影響を減らし、かつ樹木に直角になるようにする。等の方法(正規?)が確立されております。(これは現事務局長が専門の先生から受講していただいたことが大きなポイントと思います。)

小生個人は縁の下の力持ち的に時々現地を見廻ったりして番号プレートの取付け状況、樹木のペイントマーキングの状況、こっそり刈り払い、全体状況の視認、等々を行ったりしています。(ちなみに番号プレートは必ず2個取り付けるようにしています。これは以前にペイントマーキングをまだしていなかった時期に、もし番号プレートが紛失となればどの樹木かが分からなくなってアウトとなる可能性が大と思ったからです。また取付け紐は劣化に強いポリエチレン系を使用しています。これはホームセンターで調べたものです。またプレートに使用す



るインクはペイントマーカー系のサインペンを使用しています。

そして天然植生の樹木は定規と違って自由そのもの、形態さまざまで短期的にはどうしても誤差が出ると思われ、長期の視点が重要と思われれます。

また、第2エリアの測定木には2本の枯死が発生しましたが、これは当地点には土地を削って整地した形跡がありたとえその後発芽成長した樹木であっても整地の影響があったのではと考えてもいます。とりあえず報告文とする次第です。

齊藤真人 記

## 岩木山をめぐる情報・報告より

幹事会で報告されている、岩木山を巡る情報をお知らせします。

- (1) 岩木山でスカイラインからリフトに乗って終点9合目に登った時に、ハエが飛んでいるのに気が付いた方はありませんか？岩木山頂のトイレにハエが大量に発生していた、という情報を流してくださった方もおります。ハエ退治のために殺虫剤を撒くと逆に自然へのダメージをもたらします。ゴミは持ち帰るなどして、おいしい空気の山頂を維持したいものです。
- (2) 赤倉登山道26番観音付近の崩落が拡大しています。もう冬に入ったのでここを登る方はいないと思いますが、この冬を越せばこの付近の登山道自体が崩落消失している可能性も考えられます。赤倉登山道を利用する際はご注意ください。
- (3) 岩木山嶽登山道の780m付近から北側に分岐している巨木の森に向かう遊歩道、整備が不十分なために、途中で引き返す方が続出しています。行けないことはないのですが、藪が深くて、子供さんと一緒だとなかなか大変です。迷わずに行けるよう到来年整備が必要です。
- (4) 岩木山環境保全協議会が来年から、岩木山頂上に向かう5本の登山道の整備を行うことになりました。百沢、嶽の各登山道から手を付けていく予定です。登山道に係る情報をお寄せください。ここは崩れていて危ない、とか、ここは藪になっていて刈り払いが必要、とか、こここの路は別なところに付け替えた方がよくはないか、とか、なんでも結構です。

## 弥生ネットの活動


岩木山を考える会が加入している「弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク」(略称弥生ネット)では、11月、弥生スキー場跡地の樹木の成長度合いを測定する「毎木調査」と、現地で観察される野鳥を記録する「野鳥調査」を実施しました。30本の対象木の調査の結果、この1年間で平均32mm樹木が太くなっているのが確認できました。調査を開始した2010年から5年間で125mm太くなっています。自然の回復力を感じさせます。

野鳥調査では、今回は22種を確認しました。調査は3年目に入りますが、初めて観察された鳥は、ミソサザイ、キクイタダキ、ハシボソガラスの3種でした。この3年間で53種の野鳥が観察されています。

弘前市が弥生いこいの広場のリニューアルを計画しています。弥生いこいの広場は開設以来30年以上経過し、施設全体の老朽化が著しくなっているため、動物広場を中心とした施設の更新を図るのだそうです。計画策定に当たり、市民の声を反映させたいと、「弥生いこいの広場整備活用に係る懇談会」が設置されることになり、弥生ネットから委員を1名出してほしいとの要請が市からありました。竹浪事務局長が参加することにし、12月3日に第1回懇談会が開かれました。懇談会メンバーは10名で、動物広場をどのようにしていくか、いこいの広場をもっと利用しやすくするためには、など、いろいろな提案、意見が出されまし

た。竹浪事務局長も、青森県唯一の動物園を発展させる立場から、生態系に焦点を当てた展示をめざしてほしいと、また、弥生登山道の取り付き口の見直しや、付近を流れている沢の土砂災害対策などについて意見を述べました。

### \*会員の皆さんへお願い\*

 岩木山に関する情報やこういう事を会員皆と共有したいと言った希望がありましたら、事務局までご一報下さい。会報は会員の皆さんの交流の場です。また、寄稿なども大歓迎です。

### ※編集後記

12月だというのに雪も少なく快適な冬を過ごしています。りんごの樹をネズミの食害から守るため導入したフクロウの巣箱ですが設置して2年たっても営巣してくれず場所が悪いのかと大森から高岡の園地に設置場所を変えました。カラスにいたずらされるかもと林の中に置いていたのですがもっと開けた場所にして今度こそはと期待しています。かわりに家の前の畑には最近我が屋に住み着いている2匹のネコに活躍してもらいましょう。

去年は冬の間キツネが来ていました。今年はまだキツネを見ていませんが秋に人間のものぐらいの大きさはあろうかという何者かの糞を発見しました。かなりの大きさだったので熊なんでしょうね。山に近いと熊の心配もありますね。高岡では11月5日に熊の目撃があったそうですからこの大森のりんご園に出ても不思議ではないです。そしてそれよりも近年白神山地に侵出してきたニホンジカが気になります。いずれ岩木山周辺にも現れるようになったら農作物の被害はネズミどころの騒ぎではなくなるかも？

小倉慎吾 記

会報 「岩木山を考える」第 68 号 (2015 年 12 月 21 日) 発行 / 岩木山を考える会  
副会長 (会長代行) 小堀英憲

〒036-8131 青森県弘前市千年 4-12-15 / 電話 0172-87-1910

事務局長 竹浪 純 / 電話 070-6952-2614

郵便振込口座番号 02380-0-37914 振込先: 岩木山を考える会